

災害事例

労働安全衛生コンサルタント 山口好孝

HeがHEしたことは……

待ち切れない気持ちで握ったモノ

住宅の新築・改修等において、専ら塗装等の専門工事を業とするT社（労働者数約8人）で働くAさん（35歳）は、現場作業員として約7年になる。

◎労働災害発生状況

さて、某住宅（邸）の一部改築・改修工事に、Aさんら3人は、昨日に続き作業に取りかかった。今日の予定は、建物の外壁について全面的に塗装するものである。そこで、Aさんは、最近になって任されるようになった塗料の調合をすることにした。調合作業は、鉄製容器（縦横約90cm、深さ約40cm）に塗料（液状）を入れ、これに攪拌機を差し入れて混ぜ合わせるものである。（攪拌機は、0.2kW、重さ約13kg、攪拌羽根回転数約1700rpm）やがて、調合が済んだこと

からAさんは、攪拌機を容器から取り出すために同機のスイッチを切り、そして羽根軸の回転が止まるのを待つことにしたが、惰性回転中の羽根軸がなかなか止まらず、少々長くかかっているように感じたのである。次の作業に取りかかりたいと思うAさんは、この停止までが待ち切れず、かなり低速回転となっているこの軸を止めようとついぐつと左手で握ってしまった。この瞬間、軸に付着していた塗料等も影響して、軍手をしていた左手が軸に巻き込まれ、その一瞬の後に軸の回転が止まったのであるが、Aさんは巻き込まれたときにズキッとした痛みを左手第1指に感じた。作業を済ませたいとの思いもあつて「大したことはないだろう」と判断したAさんは、

そのまま続けてその日の作業を終えた。しかし、その後、痛みがひどく、腫れてきたため診察を受けたところ、靭帯損傷と診断され、休業約1カ月となったのである。

◎発生原因と対策

①惰性回転する攪拌回転軸を握る不安全行動をしたこと。

回転中の軸を握ろうとする際の危険感覚は、そのと



きの状況で程度に差が出るものである。つまり、本例では回転速度が低くなり、また、回転軸の大きさも直径約17mmであったために、危険性を低くみてしまおうという錯覚、つまりヒューマンエラー（HE）が「軸を握る」という不安全行動として出てしまったといえる。それも、ツルツルピカピカの軸ではなく、塗装等が付着していることで絡み取ら

れる危険性が増した軸に対し、である。たとえゆっくり回転する軸であったとしても、人体を損傷させるに十分な力、エネルギーを有すると知って、その危険箇所に出すことを自制する危険感受性を持つようにしたいものである。そして他方では、受傷の後に自分勝手な程度判断をせず、速やかに診察処置を受けることが重傷化させない点からも大事である。なお、本件では、軍手着用であったことを被災の要因とはしない。

用させるために関係労働者には取扱う機械の危険や作業方法、HEに対する危険感受性アップのための教育（KY/T等がある）を実施しておくべきところ未実施ともいえる状況にあり、事業者として管理が不十分であったといえるのである。

※労働安全衛生法第24条

事業者は、労働者の作業行動から生じる労働災害を防止するため必要な措置を講じること。

※同法第59条、同法安全衛生規則第35条

事業者は、労働者を雇い入れたときは、作業内容を変更したときは、機械等の危険性及びこれらの取扱い方法、作業手順その他、従事する業務に関する安全のための教育を行うこと。

ヒューマンエラー（HE）

からの不安全行動は、いつでも、どこでも、どんなときでも、誰でも、起こすものと考えてよいから、自らが次の行動をしようとする時に一呼吸入れて考え、そして自制・自重しようリスクテイキング！

（Y2X労働安全衛生コンサルタント事務所長）